

2024年5月吉日

各位

映画『暮らしの思想 佐藤真 RETROSPECTIVE』のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、突然のお手紙とチラシの郵送を申し訳ございません。

この度、弊社配給の特集上映『暮らしの思想 佐藤真 RETROSPECTIVE』の劇場上映が5月24日からスタートいたします。

つきましては、多くの方々にご覧いただきたく、ご案内をいたします。

この特集の中で、『まひるのほし』『花子』『エドワード・サイド OUT OF PLACE』の3作品は当時フィルム上映でしたが、今回4Kレストア版としてきれいな映像で蘇り、さらに公開当時は対応できなかったバリアフリー版での公開となります。

3作品については全ての上映がバリアフリー日本語字幕付き、音声ガイドはUDCastでの対応となります。

是非この機会に、佐藤真監督作品をお楽しみいただけましたら幸いです。

ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

Palabra（パラブラ）株式会社

〒164-0011

東京都中野区中央2-9-1 サン・ロータスビル401

TEL：03-5937-2231 FAX：03-5937-2233

MAIL：info@palabra-i.co.jp

URL：<https://palabra-i.co.jp/>



SATO Makoto

RETROSPECTIVE

4K RESTORED

まひるのほし (1998)
Artists in Wonderland

花子 (2001)
Hanako

エドワード・サイード
OUT OF PLACE (2005)
Out of Place: Memories of Edward Said

特別上映作品

阿賀に生きる (1992)
Living on the River Agano

SELF AND OTHERS (2000)
Self and Others

阿賀の記憶 (2004)
Memories of Agano



アート、パレスチナ、記憶、そして——
突然この世を去った稀代のドキュメンタリー作家が見つめた彼方

暮らしの中にあるもうひとつの世界の入り口

言葉にからめとられる前の世界の感触

90年代～00年代にかけて数々の傑作を生み出したドキュメンタリー映画作家、佐藤真。彼は社会運動と映画を＝(イコール)にしてきた日本ドキュメンタリーの系譜とは異なる独自のスタイルを探索した。ありきたりの「日常」を撮り、その中に潜むもうひとつの世界への入り口を探し、言葉にからめとられる前の世界の感触を伝えた。2007年に突然この世を去ったが、その革新的な手法と映画哲学は高く評価されており現代映画作家を始め多くの人たちに今なお影響を与え続けている。

暮らしの思想 佐藤真
RETROSPECTIVE

Documentary

エドワード・サイードの「不在」の風景のなかを、ゆったりと美しいカメラが、いつまでも追ってゆく。パレスチナ、イスラエルの苦しみのひだひだが照射される。人々の色濃い思い出を横切るサイード。そしてサイードの「希望」が私らの頭上に現われる。『エドワード・サイード OUT OF PLACE』

大江健三郎 (作家)

生きていると佐藤真監督の映画のことを不意に思い出す。阿賀の景色、花子の笑顔、パレスチナの難民たち。それら映像の記憶の断片はノスタルジーから遠く現在と生々しく接続している。

深田晃司 (映画監督)

なぜそう撮ったのか。なぜそう繋いだのか。なにを撮らずにいたのか。なにを撮れなかったのか。あるショットから次のショットへ、そのすべての変化が、新たな発見として、新たな応答として、そして新たな問いとして迫ってくるように受け止めています。自分なりに考えてきたつもりでも、いままた見直す、まだまだぜんぜん受け止められていないことに気づき、新たな問いばかり見つかります。レトロスペクティヴの開催を嬉しく思っています。

三宅唱 (映画監督)

佐藤真の映画ではカメラが人物の前に回ることが多い。対立でもなく、対峙でもなく、被写体の前で立ちすくむカメラ。そんな印象を受ける。答えのない過酷な生を、人々の声が和らげる。佐藤真はインタビューすることを恐れない。インタビューの一つ一つが説明に墮することがないのは、人の声自体を「できごと」として捉える感性ゆえだろう。一度お会いしたかった。

濱口竜介 (映画監督)

敬称略・順不同

佐藤真

SATO Makoto

1957年青森県生まれ。東京大学文学部哲学科卒業。大学在学中より水俣病被害者の支援活動に関わる。1981年『無事なる海』(香取直孝監督)に助監督として参加。1989年から新潟県阿賀野川流域の民家に住み込みながら撮影を始め、1992年『阿賀に生きる』を完成。ニヨン国際ドキュメンタリー映画祭銀賞など、国内外で高い評価を受ける。以降『まひるのほし』(98)、『SELF AND OTHERS』(00)、『花子』(01)、『阿賀の記憶』(04)、『エドワード・サイード OUT OF PLACE』(05)など映画監督として数々の作品を発表しながらテレビ作品の編集・構成の他、映画論の執筆など多方面に活躍。京都造形芸術大学教授、映画美学学校主任教師として後進の指導にも尽力した。2007年9月4日逝去。享年49。



©村井勇

本特集は佐藤真監督が逝去しているため製作・配給・出演者・関係者の協力を得て進めています。配給:ALFAZBET、パラブラ | 提供:パラブラ、シグロ、阿賀に生きる製作委員会、太秦、カサマフィルム、ユーロスペース | 4Kレストア:ヨコシネディーアイエー

5.24(金)～6.20(木) ロードショー

お得な全国共通鑑賞券 ¥1,300 劇場にて発売中

特典:ポストカード/3枚購入特典:トートバッグ・ポストカード

※特典は数量限定 ※「SELF AND OTHERS」にはご利用いただけません。

Bunkamura ル・シネマ 渋谷区 渋谷 3 3F 渋谷駅 徒歩5分



©1998「まひるのほし」製作委員会

表現の快楽、芸術表現の根底に迫る傑作

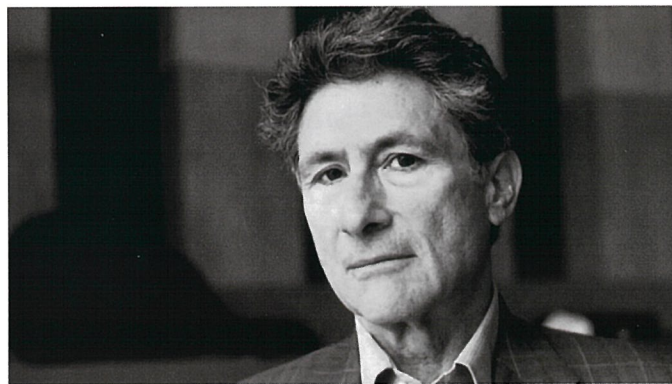
本作に登場する7人のアーティストは知的障害者と呼ばれる人たちでもある。兵庫県西宮の武庫川すずかけ作業所、神奈川県平塚の工房絵(かい)、滋賀県信楽の信楽青年寮を舞台に、それぞれ独特のこだわりを生かして創作に取り組む彼らの活動を通し、芸術表現の根底に迫る。



©2001 シグロ

アートを入り口にしたこの映画の出口には家族の日常が広がっていた。

京都府の南端、大山崎町に暮らす今村花子は、夕食の残り物を素材にした「たべものアート」の作家である。このユニークなアートの発見者である母・知左は、6年に渡って花子の「作品」を写真に撮り続けてきた。一人のアーティスト今村花子と、彼女を取り巻く家族の物語。



©2005 シグロ

パレスチナの窮状を、真実を、和解と共生の地平を、探る。

パレスチナの窮状を全世界に示し、生涯にわたりパレスチナ問題に向き合い続けたエドワード・サイード。彼の不在をみつめ、イスラエル・アラブ双方の知識人たちの証言を道標にサイードが求め続けた和解と共生の地平を探る映画の旅。

まひるのほし (4K)

Artists in Wonderland

うっかりすると我が身も私の常識も
その刃先でスッパリと切りきざまれてしまう。(佐藤真)

監督:佐藤真 | 製作:山上徹二郎/庄幸司郎 | 撮影:大津幸四郎
撮影監督:田島征三 | 録音:久保田幸雄
1998年/93分/カラー/DCP(4Kレストア)/スタンダード

UDcast 「字幕・音声ガイド対応」※一部劇場非対応

花子 (4K)

Hanako

くり返されるあたり前の日常が、
すでにひとつの確固たる「表現」として
屹立していると私には思われた。(佐藤真)

監督:佐藤真 | 製作:山上徹二郎 | 撮影:大津幸四郎
音楽:忌野清志郎/ラファイターファイ | 録音:弦巻裕 | 編集:秦岳志
2001年/60分/カラー/DCP(4Kレストア)/スタンダード

UDcast 「字幕・音声ガイド対応」※一部劇場非対応

エドワード・サイード (4K) OUT OF PLACE

Out of Place: Memories of Edward Said

そこにサイードが終生希望を託そうとした
未来が見えると思った。(佐藤真)

監督:佐藤真 | 撮影:大津幸四郎、栗原朗、佐藤真 | 企画・製作:山上徹二郎
協力プロデューサー:ジャン・エンカーマン | 整音:弦巻裕 | 編集:秦岳志
2005年/137分/カラー/DCP(4Kレストア)/スタンダード

UDcast 「字幕・音声ガイド対応」※一部劇場非対応

17年前、49歳で突然この世を去った稀代のドキュメンタリー作家、佐藤真。映画史に燦然と輝く傑作の数々がいま蘇る。

特別上映作品

阿賀に生きる

Living on the River Agano

監督:佐藤真 | 製作:阿賀に生きる製作委員会 | 撮影:小林 茂 | 音楽:経麻朗 | 録音:鈴木彰二
1992年/115分/カラー/DCP/スタンダード

人間の命の讃歌をまるごとフィルムに焼き付けた ドキュメンタリー映画の金字塔。

新潟県を流れる阿賀野川。新潟水俣病の舞台ともなった川。川筋に住む人びとは愛情を込めて「阿賀」と呼ぶ。七人のスタッフがその川筋に住み込み、そこに住む人びとを三年間にわたって撮影した。阿賀に暮らす人と風土をまるごとフィルムに収めた長編デビュー作。



©1992 阿賀に生きる製作委員会

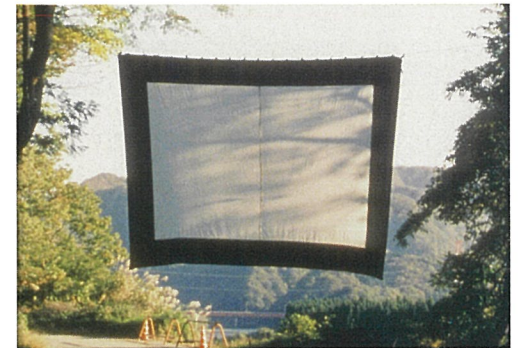
阿賀の記憶 (2K)

Memories of Agano

監督:佐藤真 | 撮影:小林 茂 | 録音:菊池信之 | 音楽:経麻朗 | 編集:秦岳志
プロデューサー:矢田部吉彦 | 製作:カサマフィルム
2004年/55分/カラー/DCP(2Kレストア)/スタンダード

不在と人と風景。 過去と現在を結びつける映画の不思議さ。

『阿賀に生きる』から10年。映画に登場した愛すべき人びとの多くはこの世を去ってしまった。今は荒れ果ててしまった田んぼや、主を失った囲炉裏などにカメラを向け、人々が残した痕跡に記憶を重ねていく。過去と現在を繊細かつ大胆に見つめた詩的ドキュメンタリー。



©2004 カサマフィルム

SELF AND OTHERS (2K)

Self and Others

監督:佐藤真 | 撮影:田村正毅 | 録音:菊池信之 | 音楽:経麻朗 | 声:西島秀俊 | 製作:堀越謙三
製作協力:映画美学校 | 製作:ユーロスペース
2000年/53分/カラー/DCP(2Kレストア)/スタンダード

36歳で天逝した写真家、牛腸茂雄。 遺された草稿や手紙と写真そして肉声。

「もしもし、きこえますか。もしもし、きこえますか……」写真家の評伝でもない作家論でもない、ドキュメンタリー映画の新たなイメージを提示する衝撃の映画。孤独な命が全世界へ向けて声を発しているような生々しさが胸を打つ。(※2024年レストア版を渋谷ユーロスペースほか全国公開予定)



©牛腸茂雄

※一部劇場のみでの公開